

**越山若水**

2019.5.9

わが家の近くに、河川敷を利用して造られた遊歩道があって、時折歩いたり、元気があればゆっくり走ったりする。大型連休の最終日も、手持ちぶさたを紛らそうと出かけてみた▼雨になった午後と違い、朝の内はなかなか気持ち良い日だった。無粋なので五感を楽しませてくれた鳥や草花の名を知らず、ここに書けないのが口惜しい。1人のウォーキングの男性が時々立ち止まって辺りを撮影していた▼着慣れた風のスポーツウェアからみて、男性は普段から散歩に訪れているようだった。目的は多くのウォーカーがそうであるように健康維持であろう。良い季節とはいえ、景色はいつも目にはしているはずの何げない自然である▼でもこの男性、手にしていたのはスマホでなくデジカメ。つまり、景色を収めたいと家を出る時から考えていたことになる。日常の自然であっても記憶にとどめたくなるのが福井と言えはあげさだろうか。この人のふるさととは断じられないが、地元の風景から癒やしを得る人の姿を間近に見た一コマと思いたい▼若狭町出身の若新雄純さんが、こんなことを言っていた。「『休みに行く福井』っていいと思いませんか」。休むために向かう場所の意で、福井が「何もない」などといわれることを逆手に取った、まちづくりの提案である。福井の良さをそのままに、人を招くことができる妙案と思う。